



SDGs 達成に向けた取組み

離島診療



目的・背景

瀬戸内の島々の過疎化や高齢化は日本の 50 年先の縮図として捉え、島に治療医学からなる予防医学を根付かせていきたいと考え、「無医島の人々に医療の光を」という想いから診療船「済生丸」を造船。

自分の体は自分で守るという予防医学を検診の普及という形で実践し、瀬戸内海島嶼部の医療に恵まれない人々が安心して暮らせるよう医療奉仕につとめています。

具体的な取組内容

愛媛県の島嶼部に年 1 回訪問。

特定健診や各種がん検診に加え整形外科診療、眼科診療、栄養指導を実施し、島民の健康管理につとめています。

(宇和島市、八幡浜市のみ 2 回、診療内容は島によって異なります)

※なお、令和 4 年度については新型コロナウイルス感染拡大防止のため特定健診とがん検診のみ実施。

また、行政、JA 愛媛厚生連、愛媛の他の済生会病院とも協力しながら診療を実施しています。

成果

令和 4 年度の愛媛県の島嶼部のみでの受診者数は受診延人数 990 人でした。

(今治市を含む)

悪天候(台風)と新型コロナウイルスの影響で一部診療を中止した島もあり、当初の計画の予定人数を下回りましたが、行政や JA 愛媛厚生連と協力して診療を実施することができ、SDGs17 のゴールのうち、主に 3 「すべての人に健康と福祉を」について貢献できたのではないかと思います。



担当者の思い

巡回診療により離島の人々の健康を守る済生丸の活動は、「誰一人取り残さない」というソーシャルインクルージョンの理念につながり、また普段病院内で勤務している職員にとっても貴重な経験ができる現場です。

準備等大変なところも多いですが、受診後の島民の方からの「ありがとう」や「また来てください」といった声を直接聞くことができ、各職員の経験値やモチベーションの向上にもつながり、とてもやりがいのある事業だと思います。これから取り組むべき課題も多いですが、今後についても「医療が受けられずに困っている人のために」という済生会創立の精神を胸に、可能な限り島民の方の思いに応えていきたいと思っています。 〈健診センター 主事 齊藤 一馬〉



無料低額診療事業



目的・背景

済生会創立の原点である「施薬救療」の理念のもと、社会福祉の増進を図ることを目的に、経済的な理由により適切な医療を受けることができない人々に対し、無料又は低額で診療を行っています。

具体的な取組内容

医療ソーシャルワーカー（MSW）が患者さんから話を聞いて制度が適用できるかどうか確認し、制度が適用された患者さんに対して、無料又は低額で診療を行っています。もし、適用とならない場合も他の方法を一緒に考えていきます。MSWは医療・福祉につながる“道”へのガイドの役割を担い、生活上のさまざまな課題の支援をしていきます。

（無料低額診療事業の広報活動等として以下の取組みを行っています）

- ・無料低額診療事業について十分な理解を得るため、医師・職員に対する研修を実施。通院・入院患者より医療費の支払いに困っていると声があげれば、すぐにMSWに連絡が入り相談に応じる体制が構築されています。
- ・松山市社会福祉協議会、生活福祉課、地域包括支援センター等に制度について説明し、パンフレットや相談券を配布。
- ・地域包括支援センターと協働して地域住民に向けた家族介護教室を開催し、制度のアナウンスを実施。
- ・更生保護施設入所者に対する無料検診を年2回実施。

成果

- ・毎月4～7件の新規利用につながっています。
- ・制度を活用した患者さんより「安心して病院に通えるようになりました」と感謝の言葉もいただくこともあり、利用者の方の負担軽減につながっています。

担当者の思い

無料低額診療事業はただ単に医療費を無料にするだけではなく、その人の生活の安定を促す重要な役割を果たしていると思います。相談に入る者のみならず、院内全体、地域全体で支える構図になっているため、患者さんの安心にもつながります。

必要な医療を提供することで、健康な身体を手に入れ、充実した日常生活を送ってもらいたいと願っていますので、患者さんの元気な姿や笑顔を見たときにやりがいを感じます。

〈地域連携室 主任 阿川直樹〉

